

支援環境開発論2(精神保健福祉論Ⅲ)

精神障害をもつ人本人が抱える ニーズの現状(1)

精神保健福祉学分野 大島 巖



先週のコメント票から

● アドボカシーとは？

- 自ら権利を主張しにくい人たちに、第三者がその権利を代弁し、主張し、実現していく取り組み。その意思を代弁するだけでなく、自己決定を援助し、利用者の生活と権利を擁護する活動。
- 権利擁護を行う対象領域として、法律、財産管理、生活支援などがあり、対象として個人、集団がある。また、実施主体として、成年後見人等、弁護士、社会福祉士・精神保健福祉士、さらには一般市民などがある。

● エンパワーメントとは？

- 個人、家族、集団などが、その個人的、対人関係的、社会経済的および政治的な影響力(パワー)を強め、それによってその取り巻く環境の改善を実現させていくこと、あるいはそれらが実現された状態



先週のコメント票から(2)



- (社会的介入)プログラムとは？
 - 社会的な問題状況や社会状況、あるいはそれに関わる個人・集団の状態を改善するために設計された、組織的で計画された通常は継続的な取り組み
 - デイケアプログラム、ケアマネジメント、就労移行支援プログラム、援助付き雇用プログラム、介護予防プログラムなど、通常、実施要項・マニュアルなどが用意され、社会的な資金が投入される
- 直接対人ケアサービスが伴うケアマネジメントへの批判
 - 日常生活上の権利侵害が発生する危険性、それに対する権利擁護機能が果たせない

きょうの到達目標



- ビデオを鑑賞して、精神障害をもつ人たちの保健・医療・福祉にわたるニーズを理解する
- 精神障害をもつ人たちのニーズを受講生間で意見交換して共有する
- 地域で生活する精神障害をもつ人たちへの支援や支援環境の整備のあり方について考える
- 受講者間で意見交換をして、考えを共有する